

陸奥宗光著『蹇々餘録草稿』(三)

檜 山 幸 夫

目次

表紙

緒言

目次

一、東学党ノ乱

二、日清兩國軍隊ヲ朝鮮ニ派ス(以上第一七卷第一

号掲載)

三、大島特命全權公使帰任及着任後朝鮮ニ於ケル形勢

四、朝鮮ノ内乱ヲ平定シ并ニ其善後ノ策トシテ同国ノ内政ヲ改革スル為メ日清兩國共同委員ヲ派出スベシトノ提案(以上第一七卷第二号掲載)

五、朝鮮ノ改革ト清韓宗属トノ問題ニ関スル総論

(以上本号掲載)

六、朝鮮内政ノ改革 第一期(以下次号掲載)

七、欧米各国ノ干涉

八、六月廿二日以後開戦ニ至ル迄ノ間ニ於ケル李鴻

章ノ位置

九、朝鮮事件ト日英条約改正トノ関係

十、牙山及豊島ノ戦闘

十一、朝鮮内政ノ改革 第二期

十二、平壤及黄海戦勝ノ結果

十三、領事裁判管轄制度ト戦争トノ関係

十四、日清講和談判開始以前ニ於ケル清国及欧州強国

ノ挙動

十五、日清講和ノ発端

十六、広島談判

十七、下ノ関談判(上)

十八、下ノ関談判(下)

十九、露・独・仏三国ノ干渉(上)

二十、露・独・仏三国ノ干渉(中)

二十一、露・独・仏三国ノ干渉(下)

結論

解説

〔第四〕 (第五)⁽¹⁾

朝鮮ノ改革ト清韓宗属トノ問題ニ関スル総論

朝鮮〔ノ〕⁽²⁾内政〔ヲ〕⁽³⁾〔ノ〕⁽³⁾改革〔セサルベカラズ〕⁽⁴⁾ト
云ヒ清韓宗属ノ〔関係ヲ廢絶スベシ〕⁽⁵⁾〔問題〕ト云フ〔問
題ノ如キハ事單ニ日韓兩國ノ間ニ止マル如キモ〕⁽⁶⁾〔モ〕
必竟其本源〔ヲ〕⁽⁷⁾〔ニ〕溯〔究ス〕⁽⁸⁾レバ日清兩國ガ朝鮮ニ
於ケル権力競争ノ結果タルヲ〔免レサルヲ〕⁽⁹⁾以テ〔今〕⁽¹⁰⁾
〔此等ノ〕⁽¹¹⁾〔本〕問題ガ如何ニ〔今〕⁽¹²⁾〔出〕來事ト牽連ス
ル。〕⁽¹³⁾〔進行〕⁽¹⁴⁾〔落着〕⁽¹⁵⁾スベキ。〕⁽¹⁶⁾ヤヲ講究スルノ以前
ニ〔先ツ從來〕⁽¹⁷⁾〔略々〕⁽¹⁸⁾日清…兩國〔ノ〕⁽¹⁹⁾〔從來ノ〕⁽²⁰⁾關
係如何〔其要〕⁽²¹⁾〔ヲ〕概〔ヲ説明セサルベカラズ〕⁽²²⁾〔説
スルノ必要アリ〕⁽²³⁾抑々日清兩國ガ隣友ノ邦國トシテ〔互
ニ往來〕⁽²⁴⁾交際〔ヲ繼續〕⁽²⁵⁾シタルハ〔由來〕⁽²⁶⁾〔年所〕⁽²⁷⁾甚タ
遠久〔ニシテ其〕⁽²⁸⁾〔ナリ〕⁽²⁹⁾政治典例文學〔技藝〕⁽³⁰⁾道義宗教
等九百文明ノ元素タルベキモノハ殆ト其淵源ヲ同〔ク〕⁽³¹⁾
〔一ニ〕⁽³²⁾シ且ツ往昔ニ在テハ我邦ハ〔支那ヨリ其〕⁽³³⁾〔常

ニ彼國ノ⁽²³⁾文明^(訂)「ノ素」^(ニ)⁽²⁴⁾因^(訂)「ヲ注入」^(リ誘導)⁽²⁵⁾
セラレタルノ惠ヲ蒙^(訂)「ル」^(リシ)⁽²⁶⁾コト甚タ多ク^(訂)「自ラ」^(訂)
彼ハ^(補)「自ラ」^(訂)先進國^(訂)「ニシテ」^(ノ位地ヲ占メ)我ハ^(補)「自
ラ」^(訂)後進國タ^(訂)「リシ実アルヲ免レザリシ」<sup>(ル如キ狀ア
リシ)</sup>⁽³¹⁾然ルニ近來歐洲各國ガ^(漸ク)^(57補)其勢力ヲ東洋ニ展
「バスニ及ビ」^(及シ所謂)⁽³³⁾西欧的ノ文明ノ元素モ亦タ
「漸ク」^(地球上)⁽³⁴⁾此ノ方域ニ^(迄)^(35補)流注シ來^(訂)「ルニ至
リ」^(リ)⁽³⁷⁾特ニ我^(訂)「邦」^(國)⁽³⁸⁾ハ皇政維新以來茲ニ廿有
七年政府^(補)「モ」^(國民)^(訂)「共ニ」^(モ)⁽⁴⁰⁾汲々トシテ西欧的ノ
文明ヲ採用^(訂)「シ」^(スル事)^(訂)「ヲ努メ是ニ由テ」<sup>(百般ノ
改革ヲ行ヒ驟々)</sup>^(補)「トシテ長足ノ」⁽⁴⁴⁾進歩^(訂)「ノ実」⁽⁴⁵⁾ヲ顕ハシ
「歐」^(訂)「殆ト」^(訂)「旧」^(訂)古日本ノ面目ヲ一變シテ新日本ノ貌^(マ)
興ヲ為シタルハ當時ノ先進國タル歐^(訂)米各國ヲシテ「殆
ト」⁽⁴⁸⁾驚歎ノ声ヲ發セシムルニ至リタ^(訂)「ル」^(リ然ル)⁽⁴⁹⁾ニ
清國ニ在テハ依然千古ノ「旧習」^(訂)「流風」^(訂)「ヲ保」^(訂)「墨」^(訂)
守シ毫モ^(補)「内外ノ形勢ニ應シテ其旧貫ヲ」⁽⁵²⁾變政スル所
「ヲ見ス」^(ナキヲ以テ)⁽⁵³⁾僅^(訂)「カ」^(訂)ニ一葦帶水ヲ隔テル…兩
國ニシテ一ハ西欧的ノ文明ヲ代表シ他ハ東亞的ノ「旧」^(訂)

「風」^(訂)習ヲ保守スル^(訂)「ノ」^(如キ)⁽⁵⁶⁾吳觀ヲ呈^(訂)「シ」<sup>(出シ
來レリ)</sup>⁽⁵⁷⁾嘗テ我國ノ漢儒者流ハ「暗」^(訂)「常」^(訂)ニ彼^(訂)「ノ」⁽⁵⁹⁾
國ヲ稱シテ中華又ハ大國ト云ヒ頗ル自國ヲ屈辱スルヲ
「悟ラ」^(訂)「顧ミ」^(訂)ス荐ニ彼ヲ崇慕シタルノ時代アリシニ
「モ拘ハラズ」^(訂)今^(訂)「日ニ於テ」^(ハ早ヤ)^(62補)「ハ」^(訂)我ハ彼ヲ
稱シテ頑迷^(訂)「蜚習ヲ免レサル」^(愚昧ノ)⁽⁶⁴⁾一大保^(補)「厯」^(訂)
守國ト侮リ彼ハ我ヲ視テ輕佻躁進妄ニ歐洲文明ノ皮想ヲ
模擬スルノ一小島^(訂)「國」^(夷)⁽⁶⁶⁾ト嘲リ兩者ノ感情^(訂)「殆ト」^(訂)
「氷炭」^(訂)相容レ^(訂)「サルニ至ラントシタ

「ル」^(レ)⁽⁶⁸⁾「ハ」^(ス)何レノ日カ茲ニ一大爭論ヲ起サミルヲ得サルベク
而シテ「假令ヒ其」^(訂)「外面ノ」^(訂)爭論ハ^(補)「如」^(訂)何^(訂)「様ノ」^(訂)
「ナル」^(訂)形跡ニ^(訂)「ヨリテ現出シ來ルモ」^(出ツルモ其)⁽⁷³⁾
爭^(訂)「卓ノ中心」^(訂)「因」^(訂)ハ必ス西欧的新文明ト東亞的舊文
明トノ衝突タル^(訂)「コトヲ免レサル」^(ベシトハ)⁽⁷⁶⁾「殆ト」^(訂)識
者ヲ俟テ^(補)「後チ」^(訂)知^(訂)「ルヲ要セ」^(ラ)⁽⁷⁸⁾サル事實ナ^(訂)「リ
シニ更」^(訂)「ルニ之ニ加フル」^(訂)ニ疆土相接シ國力稍々均
「シキ」^(訂)「等ナル」^(訂)鄰邦ノ間ニハ常ニ「隨伴」^(訂)「存在」^(訂)
スル互相ノ功名心互々相ノ猜忌心ハ^(訂)「不識不知ノ間ニ」^(訂)

(日二月二) 兩者ノ惡感ト嫉妬トヲ醸生シ彼此互ニ「畏懼」(怪異) スベカラサル事ヲ「モ」(畏懼) (怪異) シ彼此互ニ輕侮スベカラサル事ヲ「モ」(輕侮) 表面未タ何等ノ「乱」(争) 徴ヲ露ハサミルモ禍様何等「□□」何ノ處ニ暴発スルヤヲ知ラズ「即チ」(彼ノ) 琉球問題「ヨリ」(及ヒ) 臺灣問題「ニ及ビ終ニ明」(ノ外交争論ハ玆ニ詳述スル「ノ要ナシ」(ヲ待タズ) 明「□□」)

治十五年ノ後ハ日清兩國ガ「其」競争ノ焦点ヲ朝鮮國「内」ニ集メタル姿トナリ尔來朝鮮ノ事ト「サヘ」云「ヒ」(ハ) 彼我互ニ嫉妬ノ眼ヲ以テ睨視「スルニ至レ」(シタ) リ是レ今固ノ事件ニ於テモ亦当初ヨリ朝鮮ノ内乱ヲ様トシテ彼我共ニ其ノ権力ヲ「皇」(該國ニ)

張「セ」(「ラ」) (「ント」) (リ) シ「苟モ」(「タレハ」) 自家ノ功名心ヲ満足セントシタルハ「又タ」之ヲ掩フベカラズ

今ヤ實際ニ於テハ帝國政府ノ提案タル共同委員ノ説ハ清國ノ「為メニ」拒絶「セラレ」(スル所トナリ) タリ我政府ハ独力ヲ以テ朝鮮ノ改革ヲ「担」任セサルヲ…得サ

ルノ場合トナレリ是レ竟ニ日清兩國ノ衝突ヲ免^訂ハルベカラ^マ（カレ）¹⁰⁸サル^訂（ノコトタルベキハ我政府ニ於テモ）¹⁰⁹（ベシトハ〇）¹¹⁰豫知シタル所ナレトモ^訂（今ヤ）¹¹¹騎虎ノ勢亦^補（之ヲ）¹¹²如何トモスル能ハズ^マ（而シテ今固ノ出來事ニ於テ）¹¹³日清兩國ノ争点ハ第一ニ朝鮮内政ノ改革ヲ実行スルノ手段方法^訂（ニアリ）¹¹⁴（トシ）¹¹⁵第二ニ清韓宗屬ノ^訂關係ヲ^存（存）¹¹⁶廢^訂（絶スベシ）^マ（如何）¹¹⁷ト云フニアリ其清韓宗屬ノ關係ハ牙山^削（ノ）¹¹⁸戰捷ノ後朝鮮政府ハ我政府^補ノ勸告ニ從ヒ自ラ獨立國タルコトヲ^訂（宣）¹¹⁹言^訂（明）¹²⁰（シ）¹²¹（又タ）¹²²併セテ其^補（獨立）¹²³ノ資格ニ妨^訂（障）¹²⁴（害）¹²⁵アリト称^訂（ス）¹²⁶（シタ）¹²⁷ル清韓^削（兩國ノ間ニ存スル）¹²⁸通商章程等ノ諸定約ヲ公然廢棄スルコトヲ^訂（宣告）¹²⁹（宣表）¹³⁰（〔明〕）¹³¹シタリ此時ヨリ^削〔表面ニハ〕¹³²清韓宗屬ノ關係ハ既ニ断絶シタル^削（ノ）¹³³姿^訂〔ア〕¹³⁴（トナ）¹³⁵リタル^訂（ノミナラス）¹³⁶（上更ニ）¹³⁷下ノ關係約ニ於テ清國政府ガ自ラ朝鮮ヲ以テ一個ノ獨立國タルコトヲ確認シタル^訂（ヲ以テ）¹³⁸（ニ因リ）¹³⁹此一点^削（ノ爭議）¹⁴⁰ニ就テハ我政府ガ^訂〔最〕¹⁴¹（當）¹⁴²初^訂…¹⁴³（ヨリ主張セシ提議ハ）¹⁴⁴（ノ目的ヲ

遂ケ⁽¹³⁵⁾確定^(訂)シテ⁽¹³⁶⁾（不動）亦タ些ノ疑議ヲ容レサルニ至リタレドモ^(訂)所謂⁽¹³⁷⁾朝鮮内政ノ改革ナルモノニ就テハ^(訂)其間⁽¹³⁸⁾種々雜駁ナル事情^(訂)ヲ⁽¹³⁹⁾ノ紛出スルモノアリテ今尚ホ満足ナル結果ヲ^(訂)得サルノ憾ナキ能ハズ^(訂)（見ル能ハサル^(訂)頗遺憾^(訂)）（感^(訂)アレハ^(訂)）（ナキ能ハズ^(訂)）抑々朝鮮内政ノ改革ヲ我國ノ独力ヲ以テ擔任スベシト^(訂)ハ實ニ^(訂)（ノ議ノ世間ニ表白セラル、ヤ^(訂)）我國^(補)（朝野^(訂)）上下ノ議論^(補)（実ニ^(訂)）翕然一致^(訂)スル所トナリ^(訂)（シ）大抵其言フ所ヲ聴クニ朝鮮ハ^(補)（我が隣邦ナリ我國ハ^(訂)如何ナル^(訂)）（多少ノ^(訂)）艱難ニ出會スルモ隣邦ノ友誼ニ對シ^(補)（之ヲ扶^(訂)助^(訂)）（埴^(訂)スルハ^(補)（正ニ^(訂)）我國^(訂)家ノ^(訂)義俠^(訂)（心ヲ以テ此大業ヲ担当スベシ^(訂)）（已ム^(訂)）^(訂)ハイ^(訂)トシテ之ヲ避クベカラズ^(訂)（ナリ^(訂)）ト云ヒ^(訂)又^(訂)其後日清兩國ノ交戦ニ^(訂)至リシ^(訂)（及ヒシ^(訂)）トキニモ我國ハ強ク抑ヘ弱ヲ扶ケ仁義ノ師ヲ起^(訂)サミルベカラズ^(訂)（ハスモノナリ^(訂)）（スルモノナレハ亦タ他ヲ顧ミルニ及ハズ^(訂)）ト云ヒ^(訂)此朝鮮^(訂)内政ノ改革ト云フ^(訂)（殆ト成敗ノ数ヲ度外視^(訂)ニ^(訂)）シ此一種ノ外交^(訂)間

題ヲ以テ^(補)（宛モ^(訂)）政治的ノ必要ヨリモ寧ロ道義的ノ必要^(訂)ナリトノ^(訂)（ヨリ出テタルモノ如キ^(訂)）見解ヲ下シタル^(訂)（リ^(訂)）（モノ、如シ^(訂)）（滔々皆^(訂)）尤モ斯ル議論ヲ為ス人々ノ中ニ^(補)（就テ^(訂)）モ^(訂)（深ク^(訂)）其胎秘ヲ推究スレバ陰ニ朝鮮ノ改革ヲ…名トシ^(訂)之ヲ侵畧シテ^(訂)（漸ク^(訂)）我が版圖ヲ擴張^(訂)スルカ否^(訂)（セントスル如キ侵畧ヲ希望シ然ラ^(訂)）サルモ朝鮮ヲ以テ^(訂)殆ト^(訂)（全ク^(訂)）我が^(訂)附屬ノ^(訂)（保護^(訂)）國^(訂)ノ如ク^(訂)（ト為^(訂)）シ^(訂)（テ^(訂)）（常ニ^(訂)）我が權力ノ下ニ雌服セシメント企圖シタルモノモアルベク又タ^(補)（実ニ^(訂)）朝鮮ヲシテ^(訂)相^(訂)（適^(訂)）應ノ改革ヲ^(訂)行^(訂)（セ^(訂)）（ハ^(訂)）シメ^(訂)（テ^(訂)）編小ナガラモ一個^(補)（ノ^(訂)）獨立^(訂)（ノ^(訂)）國^(訂)トナシ^(訂)（タルノ体面ヲ具ヘシメ^(訂)）他日我國ガ清^(補)（國^(訂)）若クハ露^(訂)（ニ對スル^(訂)）（國ト有事ノ時ニ際シ^(訂)）中間ノ保障^(訂)トセン^(訂)（タラシメン^(訂)）ト思料シタルモノモアルベク又或ハ大早計ニモ、此際直ニ^(補)（我國ヨリ^(訂)）列國會議ヲ招集シ朝鮮ヲ以テ歐洲大陸ノ白耳義瑞西ニ於ケルガ如^(訂)（ク^(訂)）（キ^(訂)）列國保証ノ中立國トナスベシト^(訂)（私^(訂)）（擬^(訂)）議シタル^(訂)（人^(訂)）（モノ^(訂)）モアリト聞ケドモ是レ孰

レモ〔唯々〕⁽¹⁹⁶⁾ (大概) 個々⁽¹⁹⁴⁾ (人々ノ) 對話⁽¹⁹⁵⁾ 〔ノ上ノミノ
議論〕 (私語) ニ止リ其公然世間ニ表白スル所ハ (社會)⁽¹⁹⁷⁾
凡衆ノ輿論⁽¹⁹⁸⁾ 〔ト全ク所〕 (ト称スル所) 謂弱ヲ扶ケ強ヲ
抑フルノ義俠論ニ外ナラ⁽¹⁹⁹⁾ 〔ズ〕 (サリキ) 〔予〕 (余)⁽²⁰⁰⁾
ハ固ヨリ朝鮮内政ノ改革ヲ以テ政治的ノ必要ノ外何等ノ
意⁽²⁰¹⁾ 〔向ラ存セズ〕 (味ナキモノトセリ) 亦毫モ⁽²⁰²⁾ 〔夫ノ宗
教〕 (義俠) 的ナル十字軍ヲ…興スベキ必要 (アル)⁽²⁰³⁾ ヲ
視⁽²⁰⁴⁾ 〔ズ〕 (ザリシ) 故ニ朝鮮⁽²⁰⁵⁾ 〔ノ〕 内政⁽²⁰⁶⁾ 〔ヲ〕 (ノ) 改
革⁽²⁰⁷⁾ 〔スルノ必要〕 (ナルモノ) ハ第一ニ我國ノ利益ヲ主
眼トスルノ程度ニ止リ敢テ之カ為メ我⁽²⁰⁸⁾ 〔國ノ〕 利益ヲ犧
牲トスルノ (必)⁽²⁰⁹⁾ 要ナシトセリ且ツ今固ノ出來事トシテ
之ヲ論スレハ畢竟朝鮮⁽²¹⁰⁾ 〔ノ〕 内政ノ改革トハ素ト日清兩
國ノ間ニ蟠結シテ解ケサルノ難局ヲ調停セント⁽²¹¹⁾ 〔ス〕 (シ
タ) ルノ提案カ一變シテ (竟ニ)⁽²¹²⁾ 我國⁽²¹³⁾ 〔ガ〕 (ノ) 独力
ヲ以テ之ヲ担当⁽²¹⁴⁾ 〔ス〕 (セサ) ルニ至リタルモノナルガ
故ニ⁽²¹⁵⁾ 〔予〕 (余) ハ初⁽²¹⁶⁾ 〔メ〕 ヨリ朝鮮内政ノ改革其事
〔ノ〕 本体⁽²¹⁷⁾ (自身) ニ對シテハ格別ニ重⁽²¹⁸⁾ 〔キヲ措カス〕
(視セス)⁽²¹⁹⁾ 又朝鮮ノ如キ國柄ガ果シテ (善ク)⁽²²⁰⁾ 満足ナル

改革ヲ為シ⁽²²¹⁾ 〔得〕 (遂ク)⁽²²²⁾ ベキヤ⁽²²³⁾ 〔否ハ殆ト〕 (ヲ) 疑
〔義ニ堪ヘサリシ〕 (ヘリ) 然レトモ朝鮮内政⁽²²⁴⁾ 〔ノ〕 改
革⁽²²⁵⁾ 〔ナル事件〕 ハ今ヤ外交上一種ノ⁽²²⁶⁾ 〔生〕 活⁽²²⁷⁾ (的) 問題
トナリ我政府ハ兎モ角モ之ガ実行ヲ試ミサルヲ得サ⁽²²⁸⁾ 〔ル
ノ場合ニ至リタレバ〕 (ナリ左レハ) 我國上下ノ議論ガ
如何ナル⁽²²⁹⁾ 〔原〕 (情) 因ニ基⁽²³⁰⁾ 〔クニ拘…ラ〕 (キタルヲ
…問ニ及ハ) ス (之ニ) 一致協同シタルハ頗ル内外ニ對
シ都合好キ⁽²³¹⁾ 〔問題ト〕 (事) ナリ⁽²³²⁾ 〔タルヲ以テ〕 (シ余)
此好題目ヲ假リ⁽²³³⁾ 〔將ニ〕 (已ニ一回) 破裂⁽²³⁴⁾ 〔セントスル〕
(シタル) 日清兩國ノ關係ヲ⁽²³⁵⁾ 〔今一回〕 (再ヒ) 調和
〔ス〕 (シ得) ベキカ若シ⁽²³⁶⁾ 〔□□〕 (亦タ) 遂ニ之ヲ調
和スル能ハズトセバ寧ロ⁽²³⁷⁾ 〔是ニ由リ〕 (因テ以テ) 其破
裂ノ様ヲ (急)⁽²³⁸⁾ 促スベキカ (兎モ角モ) 陰々タル曇天ヲ
一變シテ一大⁽²³⁹⁾ 〔降〕 (洪) 雨⁽²⁴⁰⁾ 〔トナス〕 (ヲ降ラス) カ
一大⁽²⁴¹⁾ (快) 晴⁽²⁴²⁾ 〔日トナ〕 (ヲ得ル) 〔□□〕 (ス) カ⁽²⁴³⁾ 〔兩
様隨一ノ〕 (ノ風雨針トシテ之ヲ) 利⁽²⁴⁴⁾ 〔器ニ使〕 用セン
ト欲シタ⁽²⁴⁵⁾ 〔ルニ外ナラズ〕 (リ)⁽²⁴⁶⁾
我政府ハ曾テ朝鮮國ヲ以テ一個獨立國トシテ⁽²⁴⁷⁾ (之ヲ)⁽²⁴⁸⁾

世界列國ニ紹介シタリ今固ノ(事)変(亂)ニ際(補)ニ際
 シテモ我國ハ決シテ該國ノ独立ヲ傷害セスト(証)(各國
 二質)言シタリ故ニ今其内政ノ改革ヲ勸告スルニモ表面
 上餘リニ手荒キ方法ヲ執ル能ハサルハ論ヲ待ズ(況ヤ)
 歐米諸強國ハ將來我政府ガ朝鮮ニ對シ如何ナル計畫ヲ施
 設スベキカト各々(猜)(忌)(疑)(慧)眼ヲ以テ環視シ
 居ルノ…際我レ若シ(過度ナル進行ヲ為スニ於テハ)(一
 歩ヲ誤レハ)殆ト四面皆敵タルノ危険ニ陷ラサルヲ得サ
 ルノ時機(ナルニ於テオヤ)(タリ故ニ)其朝鮮政府ニ向
 ヒ内政(□)(□)(ノ)改革ヲ勸告スル(ニモ)(際)ニモ(深
 ク内外ノ形勢ヲ顧ミ)毎ニ寛猛(操縦)其宜ヲ失ハサル
 (ラン)コトニ注意(セサルベカラズ)(シタリ)是レ自ラ
 活潑(敏)(速)ノ手段ヲ缺(クニ至リ)(キ)タル
 ノミナラス現今ノ朝鮮ノ如ク彼レ自ラ其國ノ積弊ノ如何
 (ナル)(ニ甚ヤ)(キ)ヤヲ(知)(覺)ラス從
 テ(毫毛)(亦タ自ラ)之ヲ(除去)(矯改)(改(革)
 (匡)スルノ必要(アリト)感(セ)(スル能
 ハ)サルノ國柄ニ對シ他ヨリ之ヲ勸(告)獎(スル)
 (勵スル)ハ恰モ(滔)天ノ洪水ヲ脆弱ナル糜
 堤ヲ以テ防カントスル如ク僅ニ此一隅ヲ修覆(シ了)ス
 レバ忽チ他ノ一角ヨリ濫汜ヲ來タ(スカ故)(シ折角)
 ニ我政府ガ(勸告セシ)(懲慝シタル)改革案ナルモノ
 モ其精神(ハ)常ニ同シキモ其形状ハ時々變改セサルヲ
 得サルニ至(レ)リ且ツ此事業ヲシテ單ニ日韓兩國ノ間
 ニノミ(存在シ)(止リ)毫モ他國ノ意向如何ヲ顧(ミ)
 (慮ス)ル…ニ及ハサル(モノ)(事柄)タラシメバ何
 等ノ難事モ(ナキコトナレドモ)(容易ニ結了シタルナ
 ルベシト虽氏)凡ソ朝鮮問題ニ付テハ(最初ヨリノ行懸
 リトシテ)其名義上ニ於テハ(コソ)常ニ朝鮮カ主題タ
 ルニ拘ハラズ殆ト事々物々他ノ第三(名)(者)タル各
 強國ノ(關係)(意向)如何ヲ斟酌セサルベカラサル事情
 ヲ生シ此事情ガ動モスレバ本件ノ客題トナリ(其)主題
 ト客題トノ間ノ關係(ヲ)調和スル(コト)ノ甚タ困難
 ナル為メ又タ主題ト客題トノ重要ノ度合甚タ懸絶スル為
 メ其主題タル朝鮮問題ハ(寧口)中途ニシテ放縱セサル
 ヲ得サルニ至リ往々(同)成(ニ垂ントスル)

ノ効果ヲ「モ」一簣ニ缺キタル事「実モアリ」(モ少カ
 ラス)之ヲ約言スレバ彼ノ共同委員ノ説破裂シテ我政府
 ガ独力ヲ以テ朝鮮ノ改革ヲ「担」任スベシト云ヒ出シタ
 ル後今日ニ及ヒ尚ホ未タ全ク其(事)業「ヲ」(ノ)終
 (了シタル見)ザル所以ハ前來ノ理由ニ「是レ因レリ」
 (存セスンバアラス)而「今マ記事ノ都合……ノ為メ
 ニ」朝鮮「内政ノ」改革ノ顛末ハ「○事端甚タ」
 滋ク託事亦長ク○到底之ヲ一篇ノ内ニ包括シ能ハサル
 ヲ以テ暫ク「之ヲ」(「假ニ之ヲ」)數期ニ「分タザ
 ルヲ得ズ」(「割」)キ各々其箒ヲ分タザルヲ
 得ス)即チ日清兩國ノ間共同委員説ノ破裂シタル後牙
 山「ノ」戦捷「ノ時」ニ至ルマデヲ朝鮮「内政ノ」改革
 (第一期トシ牙山戦捷ノ後井上伯ガ特命權公使トシ
 テ大島公使ト代リ朝鮮ニ簡派セラ「ル」)(レタル時)
 ニ至ルマデヲ其第二期トシ井上公使ガ朝鮮ニ赴任ノ後
 今日ニ至ルマデヲ其第三期ト「シ」其「各々其」時期
 ニ對シ適宜ニ篇章ヲ分チテ「之ヲ」論述「スル所アルベ
 シ」(セントス)「ス」

68

〔註〕

- (1) 欄外右上に薄黒墨にて記した「第四」を、濃黒墨縦二本線にて抹消し、同墨にて記した「第五」に訂正した。訂正の墨は本文のものとは異なる。
- (2) 元字「ノ」を、朱点にて抹消した。
- (3) 元字「ヲ」を、朱点にて抹消し右行外に朱筆した「ノ」に訂正した。
- (4) 元字「セサルベカラズ」を、朱線にて抹消した。
- (5) 元字「關係ヲ廢絶スベシ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「問題」に訂正した。
- (6) 元字「問題ノ如キハ事單ニ日韓兩國ノ間ニ止マル如キモ」を、縦一本朱線にて抹消し、左行外に修正線を付して改めて記した「モ」に訂正した。これにより本文は、元文「朝鮮ノ内政ヲ改革セサルベカラズト云ヒ清韓宗屬ノ關係ヲ廢絶スベシト云フ問題ノ如キハ事單ニ日韓兩國ノ間ニ止マル如キモ」から、訂正文「朝鮮内政ノ改革ト云ヒ清韓宗屬ノ問題ト云フモ」に改められた。
- (7) 元字「ヲ」を朱点にて抹消し、右行外に朱筆した「ニ」に訂正した。
- (8) 元字「究ス」を朱線にて抹消したが、これは註(7)の訂正と絡がるもので、元文「必竟其本源ヲ溯究スレバ」を

「必竟其本源ニ溯レバ」に訂正したものである。

(9) 元字「免レサルヲ」を縦一本朱線にて削除した。

(10) 右行外に朱筆した「今」を補足した。

(11) 元字「此等ノ」を縦一本黒墨線にて抹消し、右行外に同じ黒墨にて記した「本」に訂正した。此の訂正は元文起草中のものと思われるが、元文起草直後の訂正とも考えられ詳細は不明。訂正が前者であると仮定すれば、此の訂正順位は「結果タルヲ免レサルヲ以テ此等ノ問題ガ」を「結果タルヲ免レサルヲ以テ本問題ガ」とされ、更に朱筆にて「結果タルヲ以テ今本問題ガ」に改められたものと考えられる。

(12) 元字「今回ノ出来事ト牽連スル」を、縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「進行スベキ」に改めた。その際、訂正文末尾の「キ」の下と、元文末尾の「ル」の右に朱丸が記され訂正位置が示された。此の訂正の後、更に訂正文中「進行」が異なる黒墨にて「進行」の上になぞり書きされた「落着」に再訂正した。これにより、ここでの訂正は少くとも朱筆による訂正の後に、更に黒墨筆による訂正が行われていることがわかる。

(13) 元字「先ツ從來」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「略々」に訂正した。

(14) 元字「ノ」を朱点にて抹消し、右行外に朱筆した「從來ノ」に訂正した。

(15) 元字「其要」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「ヲ」に訂正した。

(16) 元字「ヲ説明セサルベカラズ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「説スルノ必要アリ」に訂正した。

(17) 右行外に朱筆した、「互ニ往來」を補足した。

(18) 元字「ヲ継続」を、縦一本朱線にて削除した。

(19) 元字「由來」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「年所」に訂正した。

(20) 元字「ニシテ其」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「ナリ」に訂正した。

(21) 右行外に朱筆した「技藝」を補足した。

(22) 元字「ク」を朱点にて抹消し、右行外に朱筆した「一二」に訂正した。

(23) 元字「支那ヨリ其」を縦一本朱線二つにて抹消し、右行外に朱筆した「常ニ彼国ノ」に訂正した。

(24) 元字「ノ素」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「ニ」に訂正した。

(25) 元字「注入」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「リ誘導」に訂正した。これにより、元字の「ヲ」は意味上削除されることとなった。

(26) 元字「ル」を朱丸にて抹消し、右行外に朱筆した「リシ」に訂正した。

(27) 元字「自ラ」を、縦一本朱線にて削除した。

- (28) 右行外に朱筆した「自ラ」を補足した。この修正は註
(27) の抹消字をここに移動させたもので、文章上は「自
ラ彼ハ」を「彼ハ自ラ」に訂正したものである。
- (29) 元字「ニシテ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆
した「ノ位地ヲ占メ」に訂正した。
- (30) 右行外に朱筆した「自ラ」を補足した。
- (31) 元字「リシ実アルヲ免レザリ」を縦一本朱線にて抹消
し、右行外に朱筆した「ル如キ狀アリシ」に訂正し、その
末尾から修正線を元字「シ」と「然」に付したことから、
意味上元字「シ」は抹消された。
- (32) 右行外に朱筆した「漸ク」を補足した。
- (33) 元字「バスニ及ビ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に
朱筆した「及シ所謂」に訂正した。
- (34) 元字「漸ク」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆し
た「地球上」に訂正した。
- (35) 右行外に朱筆した「迄」を補足した。
- (36) 元字は不明であるが、「荒」の偏が異なる濃黒墨にて
「ハ」をなぞり書きされ「流」に改められている。
- (37) 元字「ルニ至リ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱
筆した「リ」に訂正した。
- (38) 元字「邦」を朱点にて抹消し、右行外に朱筆した「国」
に訂正した。
- (39) 右行外に朱筆した「モ」を補足した。
- (40) 元字「共ニ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆し
た「モ」に訂正した。
- (41) 元字「シ」を朱点にて削除した。
- (42) 補字中「ヲ」を朱筆したが、偏のみで削除した。意味的
には、「スル事務」とするものを、「スル事ヲ」に改めた
訂正とみるべきものである。
- (43) 右行外に「スル事^刪ヲ努メ是ニ由テ」を補足した形
となっている。然し意味上は、註(41)以降から元字「シ」
を抹消しそれに代って「スル事ヲ努メ是ニ由テ」に訂正し
たものと看做すべきものである。
- (44) 右行外に朱筆した「トシテ長足ノ」を補足した。
- (45) 元字「ノ実」を縦一本朱線にて削除した。
- (46) 修正文中「旧」が朱丸にて抹消されているが、これは修
正文起草中に「旧」が「古」に改められたものであること
から、本来は「旧^訂」(古)と看做すべきものである。
- (47) 元字「欧」を朱点にて抹消し、右行外に朱筆した「殆ト
旧日本ノ面目ヲ一変シテ新日本ノ穀興ヲ為シタルハ当時ノ
先」と、左行外に朱筆した「進国タル欧」に訂正した。そ
の際、修正文が左右に分かれたのは紙幅の関係である。ま
た、修正文末尾の「欧」は抹消した元字と重複しているこ
とから、この修正は当初「殆ト」以下を補足として起草し
つつも、補字が長文となったことから誤解を回避する意味
から敢て重複したものと思われる。

- (48) 元字「殆ト」を縦一本朱線にて抹消したが、この修正は註(47)とのかかわりによるものと思われる。
- (49) 元字「ル」を朱点にて抹消し、左行外に朱筆した「リ然ル」に訂正した。ただ、この訂正は修正の状態から推測すると、初め元字「ル」を「リ」に改め、その後「然」ルを補足したものと思われる。
- (50) 元字「旧習」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「流風」に訂正した。
- (51) 元字「保」を朱点にて抹消し、右行外に朱筆した「墨」に訂正した。
- (52) 右行外に朱筆した「内外ノ形勢ニ應シテ其旧貫ヲ」を補足した。
- (53) 元字「ヲ見ス」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「ナキヲ以テ」に訂正した。
- (54) 元字「カ」を朱点にて削除した。
- (55) 元字「旧」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「風」に訂正した。
- (56) 元字「ノ」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「如キ」に訂正した。
- (57) 元字「シ」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「出シ來レリ」に訂正した。
- (58) 元字「暗」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「常」に訂正した。
- (59) 元字「ノ」を朱点にて削除した。
- (60) 元字「悟ヲ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「顧ミ」に訂正した。
- (61) 元字「モ拘ハラズ」を縦一本朱線にて削除した。
- (62) 元字「日ニ於テ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「ハ早ヤ」に訂正した。
- (63) 元字「ハ」には修正を示す何んらのものもないが、意味上から註(62)の訂正により削除されたものと判断した。
- (64) 元字「蛭習ヲ免レサ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「愚昧ノ」に訂正した。その際、修正線によって元字「ル」が削除された。
- (65) 元字「保」の右横行外に朱筆された「厯」は、訂正に致らずして朱丸にて再抹消されたものであることから、厳密には補字ではない。
- (66) 元字「國」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「夷」に訂正された。
- (67) 元字「殆ト」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「氷炭」に訂正した。
- (68) 元字「ル」を濃黒墨丸にて抹消し、同じ墨にて右行外に修正線を付して記した「レ」に訂正した。
- (69) 元字「サルニ至ラントシタルハ」を縦一本朱線と、元字「レ」を朱点にて抹消し、右行外に朱筆した「ス」に訂正した。

- (70) 元字「假令と其」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「外面ノ」に訂正した。
- (71) 右行外に修正線を付して朱筆した「如」を補足した。
- (72) 元字「様ノ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「ナル」に訂正した。この訂正は註(71)とのかかわりから、本来は「何様ノ」を「如何ナル」に改めた訂正と看做すべきものである。
- (73) 元字「ヨリテ現出シ來ルモ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「出ツルモ其」に訂正した。
- (74) 元字「臬ノ中心」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「因」に訂正した。
- (75) 元字「コトヲ免レサル」を縦一本朱線にて削除した。
- (76) 元字「殆ト」を縦一本朱線にて削除した。
- (77) 右行外に修正線を付して朱筆した「後チ」を補足した。
- (78) 元字「ルヲ要セ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ラ」に訂正した。
- (79) 元字「リシニ更」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ルニ之ニ加フル」に訂正した。
- (80) 元字「シキ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「等ナル」に訂正した。
- (81) 元字「隨伴」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「存在」に訂正した。
- (82) 元字「不識不知ノ間ニ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「日ニ月ニ」に訂正した。
- (83) 元字「畏懼」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「怪異」に訂正した。
- (84) 元字「モ」を朱点にて削除した。
- (85) 元字「畏懼」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「怪異」に訂正した。
- (86) なぞり書きして「事」を記したものと思われるが、元字は不明であり敢て修正と看做す必要はないと判断した。
- (87) 元字「モ」を朱点にて削除した。
- (88) 元字「乱」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「争」に訂正した。
- (89) 元字と同じ黒墨丸にて抹消されているが、元字は不明である。
- (90) 元字「即チ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「彼ノ」に訂正した。
- (91) 元字「ヨリ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「及ヒ」に訂正した。
- (92) 修正朱字「ノ要ナシ」の上に、黒墨筆にて「ヲ待タズ」をなぞり書きして訂正した。
- (93) 黒墨筆で記したものを再と同じ墨点にて抹消したものであるが、元の字体は「治」とも読めるが正確には不明である。但し、仮りに推測通り「治」であるとする、此の訂正は前註の黒墨筆による訂正にかかわったもので、本文中

の「治」を見落したことによるものとみられる。

(94) 元字「ニ及ビ終ニ明」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ノ外交争論ハ玆ニ詳述スルノ要ナシ明」に訂正し、更に註(92)の再訂正を加えた。

(95) 右行外に修正線を付して朱筆した「其」を補足した。

(96) 右行外に修正線を付して朱筆した「内」を補足した。

(97) 右行外に修正線を付して「サヘ」を朱筆したが、修正の形式は意味的には後述のように補足ではなく訂正である。

(98) 元字「ヒ」を朱点にて抹消し、左行外に朱筆した「ヘ」に訂正した。この修正は、前註の修正とのかかわりから改められたもので、「朝鮮ノ事ト云ヒ」を「朝鮮ノ事サヘ云ヘ」に訂正したものである。

(99) 元字「スルニ至レ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「シタ」に訂正した。

(100) 元字「皇」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「該国ニ」に訂正した。

(101) 元字「セ」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ラ」に訂正したが、更に朱点にて抹消した。

(102) 元字「ント」を各字朱点にて抹消し、左行外に朱筆した「リ」に訂正した。

(103) 元字「苟モ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「タレハ」に訂正したが、更に縦一本朱線にて抹消した。但し、此の修正は「タレハ」を補足、「苟モ」を削除と看

做す方が妥当の様に思われる。その場合「タレハ」は補足を指示していないことから直ちに抹消したと考えるべきであろう。A(註100、103)の修正は、元文が「皇張セントシ苟モ」を、「該国ニ張ラントシタレハ」又は「該国ニ張ラントシタレハ苟モ」とし、更に「該国ニ張リシ」に再訂正したものと推測される。

(104) 元字「又タ」を朱丸にて削除した。

(105) 元字「為メニ」を縦一本朱線にて削除した。

(106) 元字「セラレ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「スル所トナリ」に訂正した。

(107) 元字「担」を朱点にて削除した。

(108) 元字「ルベカラ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「カレ」に訂正した。

(109) 元字「ノコトタルベキハ我政府ニ於テモ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「ベシトハ」に訂正した。此の際、修正文末尾に「○」印を付して文の絡がりを指示している。

(110) 元字「豫」の右上行外に朱にて「○」印を付し、前註との絡がりを指示した。

(111) 元字「今ヤ」を縦一本朱線にて抹消した。

(112) 右行外に朱筆した「之ヲ」を補足した。

(113) 元字「而シテ今囀ノ出来事ニ於テ」を縦一本朱線にて抹消した。

(114) 元字「ニアリ」を縦一本線にて抹消し、右行外に朱筆した「トシ」に訂正した。

(115) 元字「関係ヲ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「存」に訂正した。

(116) 元字「絶スベシ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「如何」に訂正した。

(117) 元字「ノ」を朱点にて削除した。

(118) 右行外に修正線を付して朱筆した「宣」を補足した。

(119) 元字「明」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「明」に訂正した。但し、この修正は前註と関連したもので、元文「言明シ」を「宣言シ」に改めたものを、更に「言明シ」に改めたもので、結局元文と同じものとなった。

(120) 右行外に修正線を付して朱筆した「又タ」を補足した。

(121) 右行外に修正線を付して朱筆した「獨立」を補足した。

(122) 元字「障」を朱点にて抹消し、右行外に朱筆した「害」に訂正した。

(123) 元字「ス」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「シタ」に訂正した。

(124) 元字「兩國ノ間ニ存スル」を縦一本線にて削除した。

(125) 元字「宣告」を縦一本線にて抹消し、右行外に上下二本の修正線を付して朱筆した「宣表」に訂正した。

(126) 右行外に朱筆した「明」を補足したが、更に朱丸にて抹

消した。但し、前註の修正線の形状からして、この修正は「明」の方が早いと思われる。

(127) 元字「表面ニハ」を縦一本線にて削除した。

(128) 元字「断」の右横行外に「尸」が朱筆されているが、途中で朱丸にて抹消された。

(129) 元字「ノ」を二つの朱点にて削除した。

(130) 元字「ア」を朱点にて抹消し、右行外に朱筆した「ト」と次行上に修正線を付して朱筆した「ナ」とに訂正した。

(131) 元字「ノミナラズ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「上更ニ」に訂正した。

(132) 元字「ヲ以テ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ニ因リ」に訂正した。

(133) 右行外に修正線を付して朱筆した「ノ争議」を補足した。

(134) 元字「最」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「当」に訂正した。

(135) 元字「ヨリ主張セシ提議ハ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ノ目的ヲ遂ケ」に訂正した。

(136) 元字「シテ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「不動」に訂正した。

(137) 元字「所謂」を縦一本朱線にて削除した。

(138) 元字「其間」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線

を付して朱筆した「從來」に訂正した。

- (139) 元字「ヲ」を同じ黒墨点にて消除したもので、意味上は次の「ノ」に訂正したものと看做すべきであろう。尚、この抹消字には更に朱点が付せられ二重の抹消となっている。

- (140) 元字「紛」の右横行外に「汨」が朱筆されているが、途中まで記された後同じ朱丸にて抹消された。

- (141) 朱筆の訂正文中削除用縦線の為字体不明。「一」のみ判読出来るが、恐らく「ヤ」と思われる。

- (142) 朱筆の訂正文中「□頗遺憾」を同じ縦一本朱線にて抹消し、朱筆の「感」に改めた。此の際、「ル」と「感」を結ぶ修正用の朱線が付されていることから、これは修正文起草中のものと思われる。

- (143) 朱筆修正文中「アレ」の上に、黒墨筆にてなぞり書きされた「ナキ能ハズ」に訂正された。「レ」の下に修正線が付されており、それが再修正文の「能」と「ハ」の間に位置していることから、明らかに黒墨筆の修正の方が後でなされたことがわかる。

- (144) 元字「得サルノ憾ナキ能ハズ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆及び黒墨筆された「見ル能ハサル感ナキ能ハズ」に訂正された。

- (145) 元字「ハ實」が縦一本朱線にて、Bの「ニ」が朱点にて抹消され、右行外に修正線を付して朱筆された「ノ議ノ世

間ニ表白セラル、ヤ」に訂正された。Bは、この訂正の際に抹消されたものであることから、「ハ實」の抹消とは別のものと考えらるべきであろう。

- (146) 左行外に修正線を付して朱筆した「朝野」を補足した。

- (147) 右行外に修正線を付して朱筆した「実ニ」を補足した。

- (148) 元字「一」と「致」の間の右横行外に朱筆されたものがあるが、朱点にて抹消されており元字も不明である。

- (149) 元字「スル所トナリ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「シ」に訂正された。

- (150) 右行外に修正線を付して朱筆された「我が」が補足された。

- (151) 元字「如何ナル」が縦一本朱線にて抹消され、右行外に修正線を付して朱筆された「多少ノ」に訂正された。

- (152) 朱筆の修正文中「助」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆された「埴」に訂正された。

- (153) 註(154) 修正文中修正線を付して右行外に朱筆された「正ニ」が補足された。

- (154) 右行外に修正線を付して朱筆された「之ヲ扶埴スルハ正ニ我国家ノ」が補足された。

- (155) 朱筆の修正文中「已ム」は、縦一本朱線にて削除された。

- (156) 註(158) 修正文中「ハイ」は朱丸にて抹消されたが、これは修正文起草中のものと思われる。

- (157) 註(158) 修正文中「トシテ之ヲ避クベカラズ」を縦一本

線にて抹消し、同文下に朱筆された「ナリ」に訂正された。この訂正は、修正線の形状からみると「已ムトシテ之ヲ避クベカラズ」とした訂正文を改めて「ナリ」としたものとみられる。

(158) 元字「心ヲ以テ此大業ヲ担当スベシ」を縦一本線にて抹消し、右行外に朱筆した「ナリ」に訂正した。

(159) 元字「又」を朱点にて削除した。

(160) 元字「至リシ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「及ヒシ」に訂正した。

(161) 本文「ハ」の右横行外に「速ニ」が朱筆されているが、修正の指示がなく直ちに朱線にて抹消された。この為本稿では挿入位置が確定しきれないことから、修正として取扱わなかった。

(162) 修正字「スモノナリ」を縦一本朱線にて抹消し、その右横に朱筆した「スルモノナレハ亦タ他ヲ顧ミルニ及ハズ」に訂正された。

(163) 元字「サマルベカラズ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「スモノナリ」に改められたが、前註の様に再訂正された。

(164) 元文中の「ノ」を同じ黒墨点にて抹消している。このことから、この修正は元文起草中の訂正、則ち「朝鮮ノ」から「朝鮮内政」への訂正と看做される。

(165) 修正文中「ニ」が同じ朱点にて抹消されているが、文意

上正確には訂正か削除かの判読はできない。

(166) 元字「此朝鮮内政ノ改革ト云」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「殆ト成敗ノ数ヲ度外視シ此一種ノ外交」に訂正した。その際に付した修正線によって、元字「フ」が抹消された。

(167) 右行外に修正線を付して朱筆された「宛モ」が補足された。

(168) 元字「ナリトノ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ヨリ出テタルモノ如キ」に訂正した。

(169) 元字「ル」を朱点にて抹消し、右行外に朱筆した「リ」に訂正した。

(170) 元字「モノ、如シ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「滔々皆」に訂正したが、更に朱線にて抹消した。

(171) 右行外に修正線を付して朱筆した「就テ」を補足した。

(172) 右行外に修正線を付して朱筆した「深ク」を補足した。

(173) 元字「之ヲ侵畧シ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「漸ク」に訂正した。此の際の修正線によって、元字「テ」が抹消された。

(174) 元字「スルカ否」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「セントスル如キ侵畧ヲ希望シ然ラ」に訂正した。

- (175) 元字「殆ト」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「全ク」に訂正した。
- (176) 元字「附属ノ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「保護」に訂正した。
- (177) 元字「ノ如ク」を朱丸にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ト為」に訂正した。
- (178) 元字「テ」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「常ニ」に訂正した。
- (179) 右行外に修正線を付して朱筆した「実ニ」を補足した。
- (180) 元字「相」を朱点にて抹消し、右行外に朱筆した「適」に訂正した。
- (181) 元字「実」を朱点にて削除した。
- (182) 元字「セ」を朱点にて抹消し、右行外に朱筆した「ハ」に訂正した。これにより、この修正は註(181)の修正と合せて元文「実行セシメ」を「行ハシメ」に訂正したものであることがわかる。
- (183) 元字「テ」を朱点にて削除した。
- (184) 右行外に修正線を付して朱筆した「ノ」を補足した。
- (185) 元字「ノ」を朱点にて削除した。この修正は、前註(184)の修正と絡ったもので、元文「一個独立ノ國」を「一個ノ独立國」に訂正したものと看做すべきである。
- (186) 元字「トナシ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「タルノ体面ヲ具ヘシメ」に訂正した。

- た。
- (187) 右行外に修正線を付して朱筆した「国」を補足した。
- (188) 元字「ニ對ス」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「国ト有事ノ時ニ際シ」に訂正した。その際の修正線から、元字「ル」が抹消された。
- (189) 元字「トセン」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「タラシメン」に訂正した。その際、「タラ」より元字の「セ」に修正線が付されていることから、この訂正は元字「トセ」を抹消して「タラ」とし(則ち「保障トセン」を「保障タラン」)、更に修正文「シメン」を加えて元字「ン」を抹消して訂正したものと思われる。
- (190) 右行外に朱筆した「我國ヨリ」を補足した。
- (191) 元字「ク」を朱点にて抹消し、右行外に朱筆した「キ」に訂正した。
- (192) 元字「私」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「擬」に訂正した。
- (193) 元字「人」を朱丸にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「モノ」に訂正した。
- (194) 元字「唯々」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「大概」に訂正した。
- (195) 右行外に修正線を付して朱筆した「人々ノ」を補足した。
- (196) 元字「ノ上ノミノ議論」を縦一本朱線にて抹消し、右行

外に修正線を付して朱筆した「私語」に訂正した。

(197) 右行外に修正線を付して朱筆した「社會」を補足した。

(198) 元字「ト全ク所」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ト称スル所」に訂正した。

(199) 元字「ズ」を朱点にて抹消し、右行外に朱線を付して朱筆した「サリキ」に訂正した。

(200) 元字「予」を薄黒墨丸にて抹消し、右行外に修正線を付して同じ薄黒墨筆した「余」に訂正した。

(201) 元字「向ヲ存セズ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「味ナキモノトセリ」に訂正した。

(202) 元字「夫ノ」と「宗教」をそれぞれ縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「義俠」に訂正した。元字抹消の状態からみると、この訂正は「夫ノ」の抹消と「義俠」への訂正により、「夫ノ宗教」から「宗教義俠」へ改めたものを、更に「宗教」の抹消により「義俠」のみに再訂正されたものと思われる。

(203) 右行外に修正線を付して朱筆した「アル」を補足した。

(204) 元字「ズ」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ザリシ」に訂正した。

(205) 元字「ノ」を朱点にて削除した。

(206) 元字「ヲ」を朱点にて抹消し、右行外に朱筆した「ノ」に訂正した。

(207) 元字「スルノ必要」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ナルモノ」に訂正した。

(208) 元字「國ノ」を縦一本朱線にて削除した。

(209) 右行外に修正線を付して朱筆した「必」を補足した。

(210) 元字「ノ」を朱点にて削除した。

(211) 元字「ス」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「シタ」に訂正した。

(212) 右行外に修正線を付して朱筆した「竟ニ」を補足した。

(213) 元字「ガ」を朱点にて抹消し、右行外に朱筆した「ノ」に訂正した。

(214) 元字「ス」を二つの朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「セサ」に訂正した。

(215) 元字「予」を薄黒墨丸にて抹消し、右行外に同じ薄黒墨筆した「余」に訂正した。

(216) 元字「メ」を朱点にて削除した。

(217) 元字「ノ本体」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「自身」に訂正した。

(218) 元字「キヲ措カズ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「視セス」に訂正した。

(219) 右行外に朱筆した「善ク」を補足した。

(220) 元字「得」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「遂ク」に訂正した。

(221) 元字「否ハ殆ト」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修

正線を付して朱筆した「ヲ」に訂正した。

(222) 元字「義ニ堪ヘサリシ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ヘリ」に訂正した。

(223) 元字「ノ」を朱点にて削除した。

(224) 元字「ナル事件」を縦一本朱線にて削除した。

(225) 元字「生」を朱点にて削除した。

(226) 右行外に修正線を付して朱筆した「的」を補足した。この修正は、前註の修正と合せたもので、意味上は元文「生活問題」を「活的問題」に訂正したものである。

(227) 元字「ルノ場合ニ至リタレバ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ナリ左レハ」に訂正した。

(228) 元字「原」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「情」に訂正した。

(229) 元字「クニ拘ラ」を二つの縦一本朱線（但し、頁替の為）にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「キタルヲ問ニ及ハ」に訂正した。

(230) 左行外に修正線を付して朱筆した「之ニ」を補足した。

(231) 元字「問題ト」を縦一本朱線にて抹消し、左行外に修正線を付して朱筆した「事」に訂正した。

(232) 元字「タルヲ以テ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「シ余」に訂正した。

(233) 元字「將ニ」を縦一本朱線にて抹消し、左行外に修正線を

付して朱筆した「已ニ一回」に訂正した。

(234) 元字「セントスル」を縦一本朱線にて抹消し、左行外に修正線を付して朱筆した「シタル」に訂正した。

(235) 元字「今一回」を縦一本朱線にて抹消し、左行外に修正線を付して朱筆した「再ヒ」に訂正した。

(236) 元字「ス」を朱点にて抹消し、左行外に修正線を付して朱筆した「シ得」に訂正した。

(237) 元字は不明であるが、黒墨点にて削除したが、これは元文起草中の修正と思われる。

(238) 前註元字の上に朱点を付し、更に右行外に修正線を付して朱筆した「亦タ」を補足した。このため、本稿では前註の修正と本註とは修正段階が異なり、両者に修正上の関連は直接的にはみられないものとして、訂正とは看做さなかつた。

(239) 元字「是ニ由リ」を縦一本朱線にて抹消し、左行外に修正線を付して朱筆した「因テ以テ」に訂正した。

(240) 右行外に修正線を付して朱筆した「急」を補足した。

(241) 右行外に修正線を付して朱筆した「兎モ角モ」を補足した。

(242) 元字「降」を朱点及び黒墨点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「洪」に訂正した。かかる修正状態から、黒墨による抹消は朱筆による修正の後に行われたものと思われる。

- (243) 元字「トナス」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ヲ降ラス」に訂正した。
- (244) 右行外に修正線を付して朱筆した「快」を補足した。
- (245) 元字「日トナ」をそれぞれ朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ヲ得ル^{不明}」に訂正した。但し、不明字は朱点にて抹消されているため、字体は不明。
- (246) 元字「ス」を朱点にて削除した。
- (247) 元字「両様随一ノ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ノ風雨針トシテ之ヲ」に訂正した。
- (248) 元字「器ニ使」を縦一本朱線にて削除し、左行外に付した修正朱線によって元文「利」と「用」とを結んだ。
- (249) 元字「ルニ外ナラス」を二つの縦一本朱線にて抹消し、左行外に朱筆した「リ」に訂正した。
- (250) 右行外に修正線を付して朱筆した「之ヲ」を補足した。
- (251) 右行外に修正線を付して朱筆した「事」を補足した。
- (252) 元字「乱」を朱点にて削除した。前註の修正から、この修正は意味上元文「今因ノ変乱」を「今因ノ事変」に訂正したものといえる。
- (253) 元字二字を同じ黒墨丸にて削除したものであるが、元字は不明である。元文起草中の抹消のため、意味的には訂正と看做すべきものである。
- (254) 元字「証」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「各国ニ質」に訂正した。
- (255) 元字「況ヤ」を縦一本朱線にて削除した。
- (256) 元字「忌」を同じ黒墨丸にて抹消し、次に記した「疑」に訂正した。この訂正は、右行外に「忌」を抹消した墨にて元文「猜」と「疑」とを結ぶ修正線を付しているから、元文起草中のものと思われる。
- (257) 元字「猜疑ノ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「慧」に再訂正した。
- (258) 元字「過度ナル進行ヲ為スニ於」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「一步ヲ誤レハ」に訂正した。此の際、修正線によって元字「テハ」が抹消された。
- (259) 元字「ナルニ於テオヤ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「タリ故ニ」に訂正した。
- (260) 元字を途中まで記しながら同じ黒墨丸にて削除した。元字は「己」と思われるが正確には不明。
- (261) 元字「ノ」が朱点二つにて削除された。
- (262) 元字「ニモ」を同じ黒墨丸にて削除した。
- (263) 元字「際」を朱点にて削除した。
- (264) 右行外に修正線を付して朱筆した「深ク内外ノ形勢ヲ顧ミ」を補足した。
- (265) 元字「操縦」を、「操」を朱点一つ、「縦」を朱点二つにて削除した。

(266) 元字「ル」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「ラン」に訂正した。

(267) 元字「セサルベカラズ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「シタリ」に訂正した。

(268) 元字「強」を朱点にて削除した。

(269) 右行外に修正線を付して朱筆した「速」を補足したが、意味上は元文「強敏ノ手段」を「敏速ノ手段」に訂正したものとして看做される。

(270) 元字「クニ至リ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「キ」に訂正した。

(271) 朱筆の修正文中「ヤ」を朱丸にて抹消し、右に朱筆した「キ」に訂正した。

(272) 元字「ナル」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に朱筆した「ニ甚キヤ」に訂正した。

(273) 元字「知」を異なる濃黒墨点にて抹消し、その黒墨にて記した「覚」に訂正した。

(274) 元字「毫モ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「亦タ自ラ」に訂正した。

(275) 元字「除去」を薄黒墨二本線にて抹消し、右行外にこの黒墨にて記した「矯改」に訂正した。この修正の順位は不明。

(276) 元字「改革」を薄黒墨丸にて抹消し、また「革」を朱点にて抹消し右行外に朱筆した「匡」に改めたが、薄黒墨点

にて更に抹消している。このことから、この修正順位は、朱による「革」の抹消と「匡」への訂正の後、更に薄黒墨による抹消がなされたことがわかる。

(277) 元字「ヲ」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「アリト」に訂正した。

(278) 元字「セ」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「スル能ハ」に訂正した。

(279) 右行外に修正線を付して朱筆した「告」を補足した。

(280) 元字「スル」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「勵スル」に訂正した。

(281) 元字「漫」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「滔」に訂正した。

(282) 右行外に修正線を付して朱筆した「シ了」を補足した。

(283) 元字「スカ故」を縦一本線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「シ折角」に訂正した。

(284) 元字「勸」を朱点で、「告セシ」を縦一本朱線にてそれぞれ抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「慇懃シタル」に訂正した。抹消方法の異いは行替の関係による。

(285) 元字「ハ」を朱点にて削除した。

(286) 右行外に修正線を付して朱筆した「レ」を補足した。

(287) 元字「存在」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「止リ」に訂正したが、その際修正線によって元字「シ」が自動的に抹消された。

- (288) 元字「ミ」を朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「慮ス」に訂正した。
- (289) 元字「モノ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「事柄」に訂正した。
- (290) 元字「ナキユト」と「ナレドモ」を縦一本朱線二本にてそれぞれ抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「容易ニ結了シタルナルベシト呈出」に訂正した。その際二つの抹消朱線が用いられたのは行替の關係による。
- (291) 右行外に修正線を付して朱筆した「最初ヨリノ行懸リトシテ」を補足した。
- (292) 右行外に修正線を付して朱筆した「コソ」を補足した。
- (293) 元字「名」を薄黒墨丸にて抹消し、右行外にこの黒墨にて記した「者」に訂正した。
- (294) 元字「關係」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「意向」に訂正した。
- (295) 元字「其」を朱点にて削除した。
- (296) 右行外に修正線を付して朱筆した「ヲ」を補足した。
- (297) 右行外に修正線を付して朱筆した「コト」を補足した。
- (298) 右行外に修正線を付して朱筆した「寧ろ」を補足した。
- (299) 元字は不明であるが、「戸」と途中まで書いたものを同じ黒墨の丸にて削除したが、意味上は元文起草中の訂正と看做される。
- (300) 右行外に修正線を付して朱筆した「垂」を補足した。註
- (301) の修正から、この修正は元文起草中の訂正と看做すべきものであるが、その範圍が不明な為本稿では消除、補足として取扱った。
- (301) 元字「ニ垂ントスル」を縦一本朱線にて削除した。
- (302) 元字「モ」を朱点にて削除した。
- (303) 元字「実モアリ」を縦一本朱線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「モ少カラス」に訂正した。
- (304) 元字「担」を朱点にて削除した。
- (305) 右行外に修正線を付して朱筆した「事」を補足した。
- (306) 元字「ヲ」を朱点にて抹消し、右行外に朱筆した「ノ」に訂正した。
- (307) 右行外に修正線を付して朱筆した「了シタル見」を補足した。
- (308) 元字「是レ因レ」を縦一本線にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「存セスンバアラス」に訂正したが、その際修正線によって自動的に元字「リ」が抹消された。
- (309) 元字「今マ記事ノ都合」と「ノ為メニ」をそれぞれ異なる薄黒墨の縦一本線にて削除した。修正線の違いは用紙の關係による。
- (310) 元字「内政ノ」を異なる薄黒墨の縦一本線にて削除した。
- (311) 修正文中元字不明。薄黒墨丸にて削除しているが、意味上は訂正と看做すべきである。

- (312) 元字「ハ」と「到」の間の右側に異なる薄黒墨にて○印を付し、その横の右行外にこの薄黒墨にて「事端甚タ□^{不明}滋ク託事亦長ク」を筆して補足した。修正文末尾にも○印が付され、前述の○印とによって、文章を絡げている。
- (313) 右行外に筆したものであるが、字体は不明。
- (314) 右行外に朱筆したもので、元字「之ヲ」を朱線にて抹消して「假ニ」に訂正したと思われる。尚、この朱筆は前註の(313)不明字の上に重ね書きしたものである。
- (315) この「之ヲ」は前註(313)と同じ薄黒墨にて、右行外に修正線を付して記したものである。
- (316) 前註(313)と(315)までをまとめると、(1)元字「之ヲ」を註(313)による異なる薄黒墨縦一本にて抹消し、右行外にその黒墨を用いて訂正字(字体不明)を記したが、再びその訂正字を同じ黒墨にて塗潰して抹消、(2)そこに元字「之ヲ」を朱線にて抹消し註(313)の上に「假ニ」を重ね書きして訂正、(3)その(2)の下部に修正線を付して黒墨にて「之ヲ」を再び記した。(1)と(3)の修正順位は不明である。
- (317) 右行外に修正線を付して「チ」を朱筆したが、濃黒墨点にて抹消。
- (318) 濃黒墨筆で書かれたもので、その上に同じ黒墨にて抹消された。元字は「裂」と思われるが正確には不明。
- (319) 右行外に濃黒墨にて修正線を付して「割□キ各々其筈ヲ分タザルヲ得ス」が記された。
- (320) この訂正は次のようになる。元字(a)「分」は濃黒墨点にて抹消、元字(b)「タザルヲ得ズ」は朱線にて抹消、修正文中の(c)は前註(317)、同(e)と(d)の關係は不明。このことから、まず朱筆による(b)の抹消と(c)の訂正、その後(a)の抹消と(d)と(f)の訂正がなされたとみられる。則ち、元文「数期二分タザルヲ得ズ」が、「数期二分チ」とされ、更に「数期二分割□キ各々其筈ヲ分タザルヲ得ス」に改められた。ここからも、朱筆による訂正の後に、黒墨(但しこの場合は濃黒墨)による訂正が加えられていることが理解される。
- (321) 元字「ノ」が朱点にて削除された。
- (322) 右行外に修正線を付して朱筆した「ノ時」を補足した。
- (323) 元字「内政ノ」を朱線にて削除した。
- (324) 右行外に修正線を付して朱筆した「ノ」を補足した。
- (325) 元字「ル、」をそれぞれ朱点にて抹消し、右行外に修正線を付して朱筆した「レタル時」に訂正した。
- (326) 元字「其」は朱点により削除された。
- (327) 右行外に修正線を付して朱筆した「々其」が補足された。
- (328) 右行外に修正線を付して朱筆した「之ヲ」が補足された。
- (329) 元字「スル所アルベシ」を朱線にて抹消し、左行外に朱筆した「セントス」に訂正した。
- (330) 元文初めの「シ」の右横行外に、異なる濃黒墨にて「ス」

が記され、他の全ての訂正となる。ここでの修正は次のようである。まず朱筆によって註(326・327・328・329)の訂正が行われ、その後それらの全てが濃黒墨一本線(但し註329の訂正文のみ二本線)にて抹消され、「ス」に訂正された。

則ち、元文「其第三期トシ其各時期ニ對シ適宜ニ篇章ヲ分チテ論述スル所アルベシ」に、朱筆による訂正が加えられて「其第三期トシ各々其時期ニ對シ適宜ニ篇章ヲ分チテ之ヲ論述セントス」とされ、更に濃黒墨筆による抹消から「其第三期トス」に改められた。

(331) 本文は本資料の五七頁から六八頁に該当しており、文書は外務省用八行×二茶野紙一二枚に黒墨筆されたものである。本文中の修正も、薄黒墨・濃黒墨や朱墨等が用いられており、その用い方は朱墨の訂正が先であったようにみられる。濃黒墨は、最後の訂正に用いられてように思われる。勿論、黒墨による訂正を墨の薄さ濃さで単純に判別することは出来ないし、特に薄墨が前半、朱・濃墨が後半に集中していることから同一時期の修正とも考えられる。このことから、ここでの修正は朱・黒各墨によって最低二回はなされていることがわかる。